

12日 木曜

ピリピ



1:22 しかし、肉体において生きることが続くなから、私の働きが実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいか、私には分かりません。

1:23 私は、その二つのことの間で板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。そのほうが、はるかに望ましいのです。

1:24 しかし、この肉体にとどまることが、あなたがたのためにはもっと必要です。

1:25 このことを確信しているので、あなたがたの信仰の前進と喜びのために、私が生きながらえて、あなたがたすべてとともにいるようになることを知っています。

1:26 そうなれば、私は再びあなたがたのもとに行けるので、私に関するあなたがたの誇りは、キリスト・イエスにあって増し加わるでしょう。

1:27 ただキリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにして堅く立ち、福音の信仰のために心を一つにしてともに戦っていて、

1:28 どんなことがあっても、反対者たちに脅かされることはない、と。そのことは、彼らにとっては滅びのしるし、あなたがたにとっては救いのしるしです。それは神によることです。

1:29 あなたがたがキリストのために受けた恵みは、キリストを信じることでなく、キリストのために苦しむことでもあるのです。

1:30 かつて私について見て、今また私について聞いているのと同じ苦闘を、あなたがたは経験しているのです。

パウロのこのような神中心の信仰は、死を解決したところから来ているようです。実際にキリストンにとっては死は敗北でも絶望でもなく、「キリストとともにいる」ことであって、「はるかに望ましい」ことなのです。パウロは自分のためではなくピリピの信徒のために、また主の使命のためにまだ地上にいたいと思っています。

このように死を解決した人は、人生を使命として考えることができます。キリストンのみなしを解決した者です。それは主イエスの十字架のゆえにです。

パウロはピリピの人々に良い生き方を指導しますが、そのことばは「ただ、キリストの福音にふさわしく生活しなさい。」というものです。たくさんの方の指導のことばも有り得ますが、本質はそこにあります。私たちも同じで、常に救われた者としてふさわしい生き方をしましょう。それが実際に何をすることなのか、そのときの状況に合わせて考えることも大切な訓練です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

